

# 部活動に関する安全対策マニュアル

宮古商工高等学校

このマニュアルは、部活動時の危険を回避し、安全に実施するため示すものであり、全職員の共通認識において、安全対策を講じる。

## 1 共通事項

### (1) 活動場所の環境整備

- ①各校舎保健部主導による安全点検の他、各部において活動場所の安全点検を週初めに必ず行う。
- ②施設・用具に不備がある場合は、活動場所・用具の使用を停止し、修繕について報告・相談する。
- ③老朽化した用具・ネット等は使用しない。

### (2) 顧問や指導者不在時の部活動について

- ①顧問から事前に指示の上、アップ・基礎メニュー・ドリル等、危険度が低いメニューとする。
- ②全職員対象の会議時は、部活動を禁止とする。
- ③各部の特性により、別に示す禁止事項や練習メニューを絶対に行わない。
- ④不測の事態に備え非常時の連絡先を把握しておくこと。会議中は事務室に緊急連絡を入れる。

### (3) 熱中症対策について

- ①各活動場所に設置してある「熱中症計」を確認し、高温時（31℃）・暑さ指数（WBGT）が28℃を越える場合は激しい運動や持久走を行わない。
- ②気温高温時は、休憩を30分に一回程度とるように努め、水分補給をこまめに行う。
- ③各校舎においては、製氷機の氷を適に使用して良い。

### (4) 自然災害等への対応

- ①災害発生時は、直ちに活動を停止し、避難行動に入る。
- ②学校防災計画を確認し、顧問・部員全員に対して避難場所・避難経路について周知する。

### (5) 緊急時の対応

- ①各活動場所において、AED設置の有無、設置場所を確認し、事前に周知を図る。
- ②体調不良・ケガが発生した場合は、応急手当や適切な対処を行うこと。特に、熱中症症状や大量出血、意識がもうろうとしている場合など、安易な判断をせず、救急車を要請する。

## 2 各活動場所における安全対策

### (1) 屋内（体育館・柔剣道場・レスリング道場・弓道場・教室等）

- ①活動するスペースを十分に確保し、床や周囲に衝突する危険があるものを置かない。
- ②体育館を共有する場合には、区分けのネットを確実に張る。
- ③活動中は、倉庫・部室の扉を確実に閉める。
- ④活動後の消灯・施錠を確認すること。火器の使用は防災管理規程による。

### (2) 屋外（グラウンド・ヨットハーバー・外部テニスコート等）

- ①活動する場所の周囲に危険因子が無いか確認してから活動する。
- ②防球ネット・ゴール等の破れ・破損が無いか確認する。
- ③グラウンド・コートは、整備を入念に行い、転倒や不測の事故の予防を徹底する。
- ④活動場所への移動時は、交通安全に努め、通行禁止としている場所を通らない。

### 3 種目ごとの安全対策マニュアル

#### <陸上競技>

- ①陸上競技の投擲種目練習は顧問不在時には行わない。
- ②投擲ゲージを必ず設置し、周囲に聞こえるように発声してから投げる。
- ③部活動開始時に、種目練習の周知を行う。
- ④競技場の走路は一方通行とし、走路横断時は駆け足移動とする。

#### <バスケットボール・バレーボール・卓球 等 体育館種目>

- ①ウェイトトレーニング、接触プレー、試合形式のメニューを顧問不在時には行わない。
- ②使用用具の点検、消毒を行う。
- ③練習時、支柱には必ずカバーを装着し、ネット、アンテナの破損が無いか確認する。
- ④支柱やネットの設置は、必ず複数名で行う。

#### <硬式野球・ソフトボール>

- ①フリーバッティングを行うときは、バッティングゲージと防球ネットを必ず設置する。
- ②ノック補助者は、ヘルメットを着用する。
- ③防球ネットは、使用前に破れ・破損が無いか確認する。
- ④バッティングマシン使用時は、周囲の安全を確認し、補助者は必ずボール挿入の合図を発声する。

#### <ラグビー・サッカー>

- ①ウェイトトレーニング、接触プレー、試合形式のメニューを顧問不在時には行わない。
- ②コンタクトプレーの練習は、ヘッドギア、マウスピースを必ず着用する。
- ③サッカーゴールの移動は、必ず10名以上で行い、顧問立ち合い時とする。
- ④接触プレーによる、裂傷や打撲に備え、救急道具を常備する。

#### <ソフトテニス>

- ①コート整備のローラーは複数で操作し、周囲の安全を確認しながら行う。
- ②コート上の危険因子（釘、石）が無いか練習前に確認する。

#### <弓道>

- ①弓具の破損が無いか、適切なサイズであるか、常時確認する。
- ②弓を引く人の周囲の安全を確認する。近づかない、話かけない。
- ③矢道に立ち入るときは、矢道及び場内に人がいないことを確認し、安全確認の発声をしてから入る。

#### <レスリング・柔道・剣道>

- ①ウェイトトレーニング、実戦形式（乱取り、投げ込み、寝技）のメニューを顧問不在時には行わない。
- ②一つの場内で、同時に乱取りを行う場合は3組までとする。
- ③使用前に竹刀、防具の破損が無いか点検する。
- ④受け身、体裁き、足裁きの基本的な動きを習得してから、実戦形式のメニューを行う。

#### <ヨット>

- ①ヨットハーバー入退場時の名簿記入、出艇申告、着艇申告を必ず行う。
- ②教員（顧問）不在時、又は救助艇で海に出られないときは、海上練習は行わない。
- ③風速10m/s以上、波高2m以上、視程1,000m以下の場合、水温5℃以下、震度4以上の地震及び津波注意報、警報発令時は練習を中止する。
- ④教員が操縦する救助艇1艇につき、海上練習可能なヨットは3艇までとする。
- ⑤緊急連絡手段として、救助艇には無線機を搭載する。
- ⑥ライフジャケット、ウェットスーツ、マリンシューズ、手袋等を装着する。
- ⑦台船、本船の進路から離れる。閉伊川河口の赤灯台と緑灯台を結ぶ線より北で海上練習をしない。

- ⑧艇庫の施錠を厳重に管理する。
- ⑨全部員が避難経路を確認し、有事に備える。

#### 4 ヒヤリハット事例（令和6年9月時点）

##### <陸上競技>

- ・投擲種目練習の際、投げた円盤が、設置してあるゲージのギリギリに衝突した。ゲージを設置していても、周辺の安全確認は怠ってはならない。
- ・走路に入るときは声をかけるようにしているが、他団体の活動者と意思疎通が取れず衝突しそうになった。

##### <バスケットボール>

- ・部活動開始時に顧問が校舎間移動が間に合わない。気温高温時、ウォーミングアップを始めているので、体調を確認しないままスタートしている。

##### <バレーボール>

- ・ボールを追いかけて、体育館を半分に仕切っているネットに突っ込む。足が絡まってしまい転倒する。

##### <卓球>

- ・卓球台を設置するとき、安全装置を解除しないまま無理やり倒して、勢いよく床に台が落ちる。足を挟みそうになる。
- ・卓球マシンの球吸い込み口に、うかつに手を近づけて、吸い込まれそうになる。

##### <硬式野球>

- ・打撃ゲージや防球ネットが強風であおられ、近くにいる者に倒れかかる。
- ・打球が工業校舎の駐車場や、公道に飛び出し、歩行者や通行する車両にぶつかりそうになる。

##### <サッカー>

- ・ゴールの固定を忘れ、強風でゴールが倒れそうになった。

##### <ラグビー>

- ・タックル練習の際、別グループの者と同じ方向に転んでしまい、頭がぶつかりそうになった。

##### <ソフトテニス>

- ・外部での活動場所への徒歩移動時、道路を横断する機会が多く、通行車にひかれそうになった。
- ・藤原コート付近に飲み物を調達できる場所が無く、練習中に水分補給不足になり、熱中症になりかけた生徒がいた。

##### <柔道・剣道>

- ・高温、暑さ指数（WBGT）がぎりぎりの数値であったが、大会直前であったため練習していたところ、熱中症になりかけた生徒がいた。

##### <ヨット>

- ・ヨットの端に足をかけて操縦することがある。バランスを崩すとヨットから海へ落下してしまう。海水温が低いときは、低体温症にすぐになるので危険。
- ・ヨットをスロープに上げるとき、スロープに藻が大量に生えており、足を滑られて転倒。前歯を折った。

##### <ソフトボール>

- ・グラウンドを囲む防球ネットが低いため、打球が近隣施設（自動車工場等）に飛び出す。人や車にぶつかる。
- ・グラウンド排水のための傾斜がきつい、大震災でグラウンドが歪んでいるのもあり、大雨が降ると水路ができってしまう。練習中、その窪みに足をとられ捻挫した。

#### <レスリング>

- ・実戦練習、乱取りを複数個所で行っているとき、壁や他のペアと衝突しそうになる。
- ・投げ技に抵抗しようと頑張りすぎて、頭部からマットに崩れてしまうときがあり危険。

#### 4 附則

このマニュアルは令和4年6月17日より施行する。